

漱石の和製漢語

中里見, 敬
九州大学言語文化研究院 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/1522211>

出版情報 : 日中友好新聞. 第2360号付録 (福岡県連版・文化版第555号), 2015-08-15. 日本中国友好協会
福岡県連合会
バージョン :
権利関係 :

随想

第十六回

同僚から「敢為邁往」（かんいまいおう）という難しい四字熟語の使われたメールが届いた。ネットで検索してみると、「目的に向かって困難をもともせず、まっしぐらに進んで行くこと」といった意味が出てくる。さらに調べると、夏目漱石が「現代日本の開化」という講演で用いたとのこと。

この四字熟語、中国語としてはどこか違和感がある。辞書でも

「敢為邁往」の用例は見出せない。もともと漢文で「邁往」というと世俗を超越するという意味であった。恐れずに進む「邁進」と同義の「邁往」という使い方は、実は

日本語から逆輸入された用法であつたらしく、中国共産党創設者の一人である李大釗が「国民之薪胆」という文章の中で、中国語として

漱石の和製漢語

中里見 敬

すわりのよい「邁往直前」という四字にアレンジして使っている。李は大正時代に早稲田大学に留学しており、日本語の「邁往」という用法になじんだのかもしれない。いま世の中には本場の英米で通じない和製英語が氾濫しているが、明治の夏目漱石も和製漢語を使い、さらに中国人革命家がその二字を借りて文章を書いたとは、なんとも愉快な話ではなからうか。

（九州大学言語文化研究院准教授）